

エコアクション21 環境活動レポート

活動期間：平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日



平成30年4月27日作成



株式会社シーピーアール
CPR飯山工場

環境方針

株式会社シーピーアールCPR飯山工場は、当社の業であるリサイクルパレット製造業務において、環境保全への取り組みを最重要課題の一つとして捉え、環境負荷を低減して地球環境の保全並びに環境汚染防止に寄与するため、以下の「環境方針」を定め、これに基づいた経営活動を行います。

1. 業務を適正かつ安全に行うために、法律や条例及び利害関係者との同意事項を遵守します。
2. 環境管理体制を整備し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
3. 環境汚染の未然防止及び環境負荷の削減を図ります。
4. 以下の項目について優先して活動し、環境保全に取り組みます。
 - ・電力量の削減による省エネの推進
 - ・従業員並びに工場見学者に対し、プラスチック製容器包装のリサイクルに関する啓発活動の実施
 - ・廃棄物の再利用並びに用途開発による産業廃棄物削減の推進
 - ・排水の有効利用と総排水量の削減
5. この環境方針に沿って、環境に対する目的・目標を定め、見直しを行います。
6. 環境方針を全社員に周知徹底し、自主的・積極的に実行します。

本方針は、エコアクション21全体の取組状況を評価し、環境変化に適合するため、定期的に見直しを行います。
また、社外の関係者より要請のあった場合は公表します。

2018年4月2日

株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦

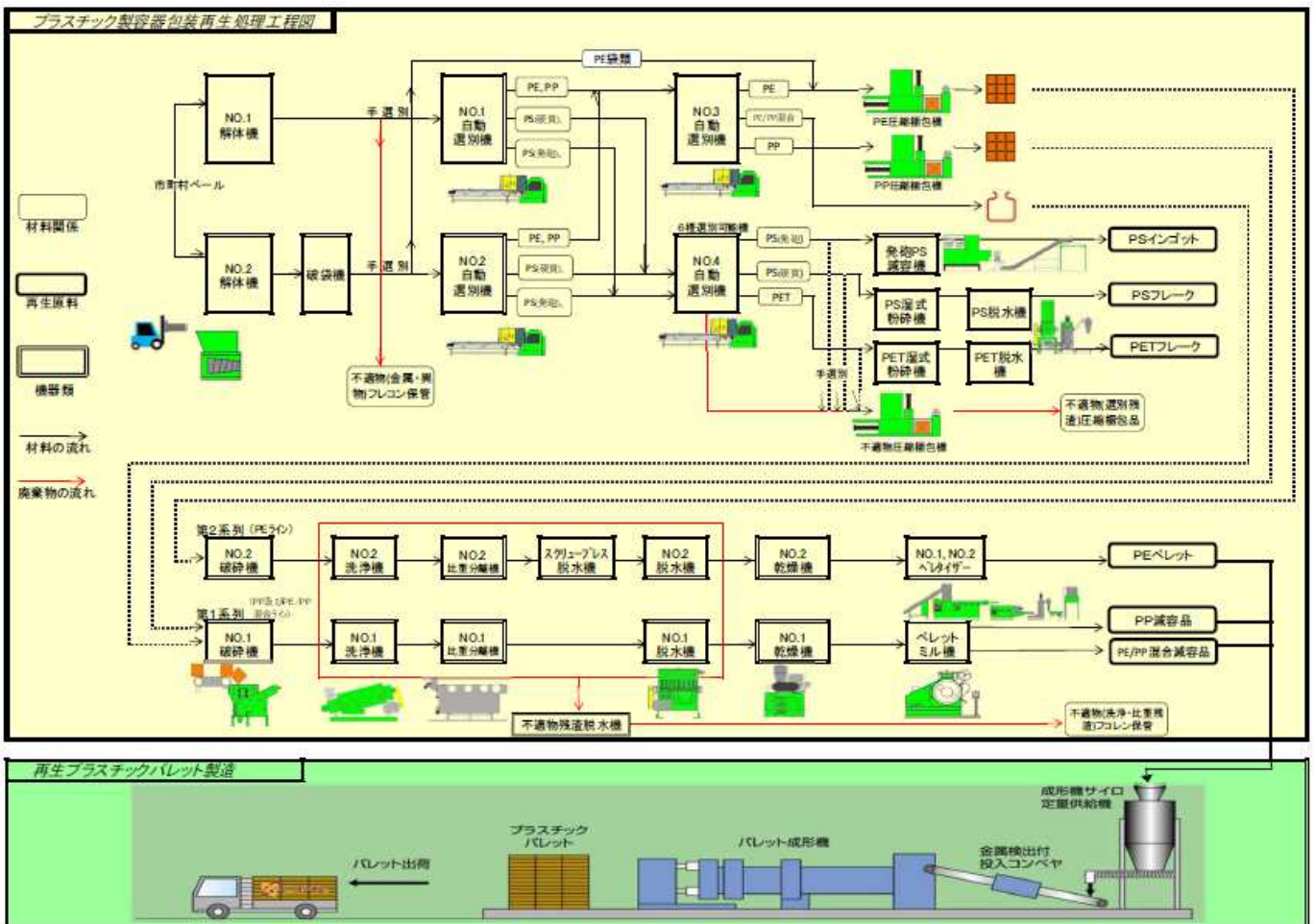
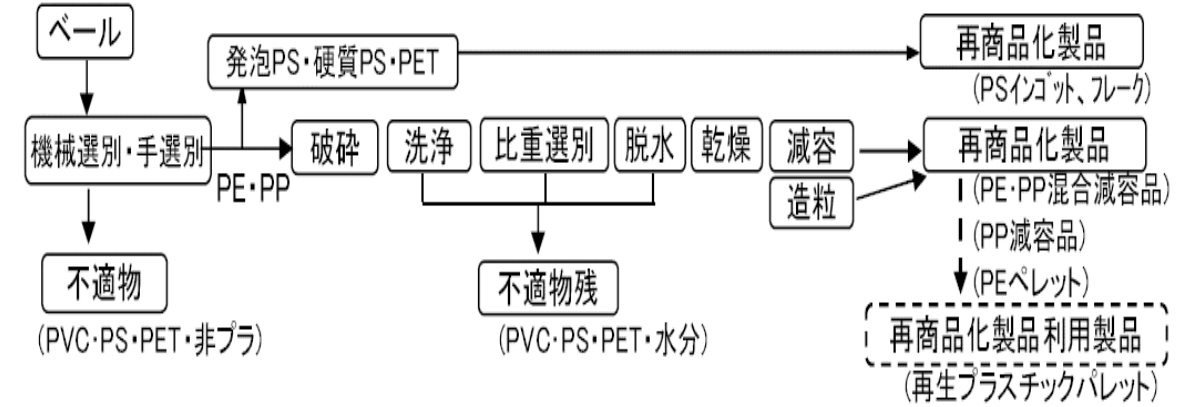
I. 事業の概要

1. 事業所名及び代表者氏名
株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦
2. 法人設立年月日
昭和43年6月6日
3. 資本金
2,000万円
4. 所在地
〒389-2418
長野県飯山市大字寿50
5. 環境保全に関する責任者及び担当者
責任者 代表取締役 鷹見 善彦
担当者 環境管理責任者 森山 卓也
事務局 山崎奈津子
松村 俊之
6. 連絡先
電話 : 0269-81-2174
FAX : 0269-81-2180
E-mail : iiyama@cpr-net.jp
7. 事業活動の内容
容器包装リサイクル法に基づく、プラスチック製容器包装再生処理（選別・
破砕・減容）および リサイクルパレットの製造
8. 事業の規模（H29実績）
プラスチック製容器包装再生処理量 : 10,273 t/年
プラスチック製容器包装再生処理能力 : 96 t/日 (29,280 t/年)
リサイクルパレット生産量 : 346,132枚/年 (6,387 t/年)
リサイクルパレット生産能力 : 1,830 kg/hr
売上高(CPR飯山工場) : 972 百万円
従業員数 : 62 名
敷地面積 : 16,283 m²
建屋面積 : 6,103 m²
9. 事業の開始
平成18年4月1日
10. 許可の内容
一般廃棄物処理施設設置許可証
許可年月日 : 平成17年2月24日
一般廃棄物処理施設変更許可証
許可年月日 : 平成28年7月22日
許可番号 : 第04-17401号

11. 再生処理工程図

材料リサイクル

(プラスチック製容器包装)



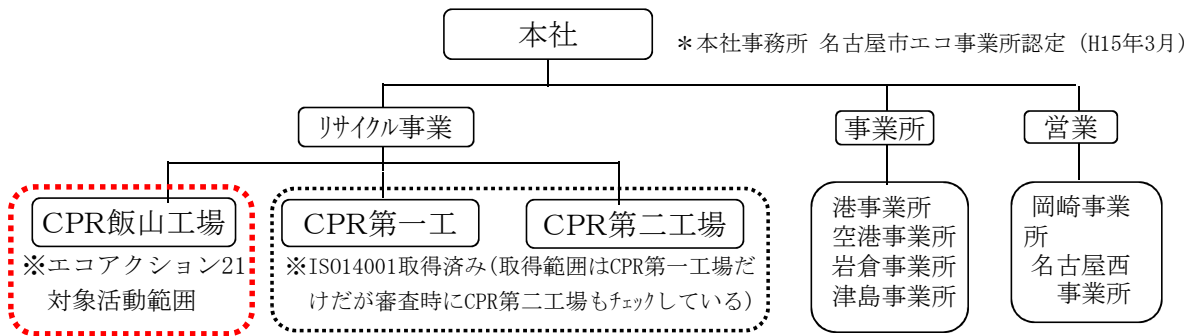
12 対象範囲及び組織

(1) 対象範囲

対象事業所：株式会社シーピーアールCPR飯山工場

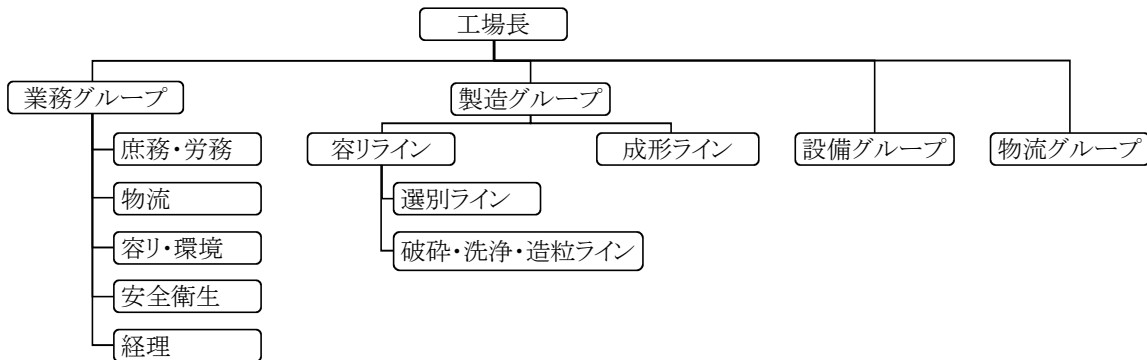
対象活動範囲：プラスチック製容器包装一般廃棄物処理業、リサイクルパレット製造業

(2) 全社組織図

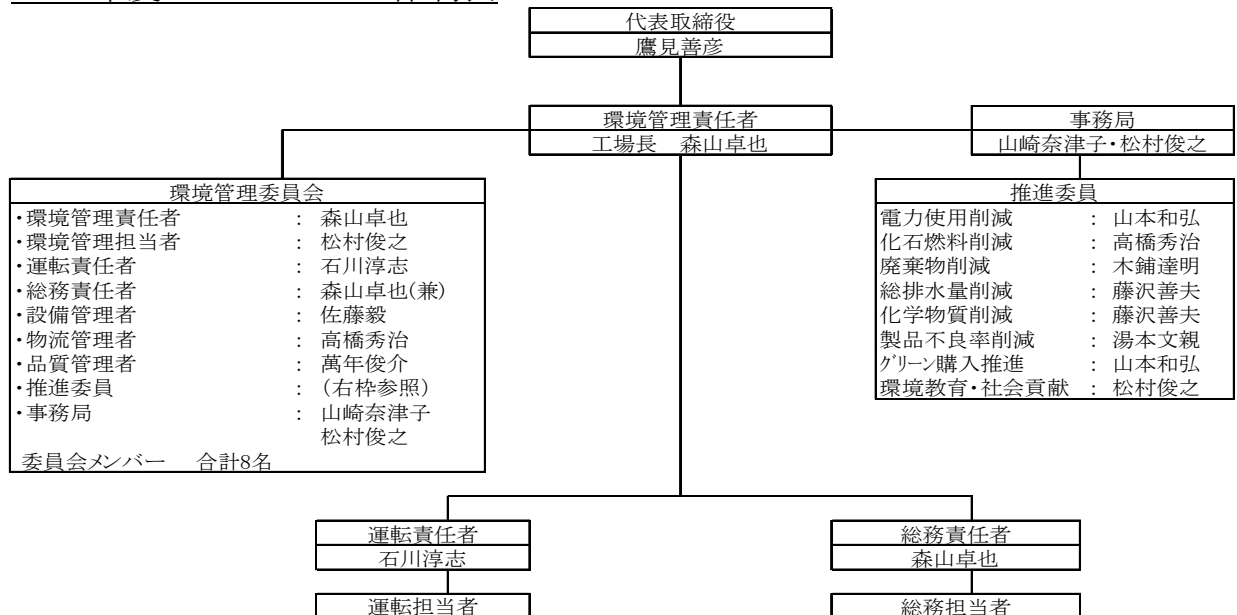


※各事業所は「請負・派遣業」であり客先の環境活動に従う

(3) CPR飯山工場組織図 (H29年度)



H29年度 エコアクション体制表



Ⅱ. 環境目標とその実績 (H29年4月～H30年3月)

昨年同様に、2009年度版ガイドラインに対応した環境方針・目標を継続することとし、以下の項目を目標・活動の柱とし取組みの継続とレベルアップを図る。
また、目標値については、H28年8月に設備大改造を実施したために原単位比較対象を通期とせずH28年10月～H29年3月の下期を対象とし、総物質投入予定量(18,200t)から、年間目標値を設定した。

【物質投入予定量と実績】

	項目	単位	予定量	実績
総物質投入量	原料ベール投入量	t	11,000	10,273
	パレット原料投入量	t	7,200	6,701
	(合計)	t	18,200	16,974

【環境目標と実績】

環境方針		環境目標 (H28年4月～H29年3月)	実数目標	実績
1	省エネ・CO2削減	電力使用量の削減 (前年比▲0.6%)	8,701,742kwh以下	8,664,586kwh
2		ガソリン使用量の削減 (前年比▲)	26,360以下	25,080
3		フォークリフト燃費向上	0.29h/ℓ以上	0.31h/ℓ
4	廃棄物の排出抑制	廃棄物全体の削減 (前年比▲0.6%)	6,343,468kg以下	5,669,000kg
5	総排水量の低減	上水使用量の削減 (前年比▲5.0%)	37,510m ³ 以下	37,954m ³
6	化学物質投入量の削減	75%硫酸の削減	720kg以下	240kg
7		ポリ塩化アルミニウムの削減 (前年比▲0.6%)	18,810kg以下	18,410kg
8	不良製品の削減	パレット成形不良の削減	不良率1.32%以下	1.17%
9	グリーン購入の推進	事務用品、資材の再生品利用推進	事務用品のグリーン購入比率を65%以上 (金額比)	56.0%
10	環境教育・社会貢献	社員教育の実施	2回/年	2回/年
11		地域環境活動への参加	1回/年	2回/年
12		工場見学者へのリサイクル啓発活動	300人/年	380人/年

上記項目について、目標値及びH28年度と比較し、以下に検証を行う。
なお比較に当たっては、H28年度実績・H29年度目標・H29年度実績とも資源の投入量(原料ベール入荷量、リサイクルパレット製造量)の実数値が異なる為、資源投入量当りの環境負荷を算出し、比較することとした。

1. 実績 (環境負荷の取りまとめ表) ※電力の排出係数は中部電力の0.516kg-CO₂/kwhを使用している

	単位	H28年実績		H29年目標		H29年実績				
		実績	物質投入 1t当り	目標	物質投入 1t当り	実績	物質投入 1t当り	H28 対比	目標 対比	
総エネルギー投入量	MJ	78,713,214	3,767	85,538,124	4,700	85,172,880	4,994	133%	106%	
	MJ	1,093,403	52.32	912,056	50.11	867,768	50.88	97%	102%	
総物質投入量	原料ベール投入量	t	13,988	-	11,000	-	10,273	-	-	
	パレット原料投入量	t	6,910	-	7,200	-	6,781	-	-	
	(合計)	t	20,898	-	18,200	-	17,054	-	94%	
水資源投入	水道	m ³	48,630	3.48	37,510	3.41	37,954	3.69	106%	108%
温室効果ガス排出量	購入電力排出量	Kg-CO ₂	4,131,843	197.71	4,490,099	246.71	4,470,926	262.17	133%	106%
	化石燃料排出量	Kg-CO ₂	73,474	3.52	61,199	3.36	58,227	3.41	97%	102%
受託した一般廃棄物の処理量	収集運搬量	t	0	0.00	0	0.00	0	0.00	-	-
	中間処理量	t	13,988	1.00	11,000	1.00	10,273	1.00	100%	100%
	うち再資源化量	t	6,914	0.49	7,150	0.65	5,153	0.50	101%	77%
	最終処分量	t	0	0.00	0	0.00	0	0.00	-	-
	中間処理後の産廃	t	7,810	0.56	5,495	0.50	5,553	0.54	97%	108%
廃棄物等総排出量	再使用	t	587	0.03	-	-	0	0.00	-	-
	熱回収・固形燃料	t	6,608	0.32	-	-	12	0.00	0%	-
	単純焼却	t	83	0.00	-	-	43	0.00	-	-
	その他	t	1,123	0.00	-	-	5,499	0.00	-	-
	(合計)	t	8,401	0.40	6,755	0.37	5,554	0.33	81%	88%
総排水量	公共用水域	m ³	0	0.00	0	0.00	0	0.00	-	-
	下水道	m ³	47,378	3.48	35,935	1.97	35,869	3.48	100%	176%
化学物質削減	硫酸	kg	180	0.01	720	0.07	240	0.02	182%	36%
	PAC剤	kg	27,420	1.96	26,152	2.38	18,410	1.79	91%	75%
不良パレット削減	製品不良率	%	1.6	-	1.32	-	1.17	-	-	-

2. 全体評価

今年度の環境目標設定にあたり、昨年度のH28年度8月に実施した、プラスチック再生ごみ処理技術・製品の高度化（単一素材の再商品化製品を製造する）ためと処理量の拡大を目的に、施設の変更を行い、PP減容品、PEペレット、PP・PE混合減容品、PSインゴット、PSフレーク、PETフレークが製造できるようになりました。このように、容リラインである選別工程、破碎・洗浄・造粒工程に新規に設備を導入したことにより、電力などの環境負荷が増加したことから、H28年度10月からH29年度3月迄を対象としました。

(1) 電力使用量の削減（省エネルギー、CO₂排出削減）

- ① 電力使用量は実数で8,664,586kwh、目標に対し4%の減、総物質投入量当りで見ると6%の増となった。省エネへの取り組み活動を継続して実施しているために効果が見られる。
- ② H29年7月より各設備毎のデマンドコントローラによるきめ細かい電力が監視できるようになり、現状の電力需要、需給状況も踏まえ、更なる少エネ節電のためフィードバックして更に改善を進める。

(2) 化石燃料の使用削減（省エネルギー、CO₂排出削減）

- ① ガソリンの使用量実数は25,080lで実数目標対比5%と目標達成となった。また、フォークリフトの燃費については、目標を達成することができなかった。燃費の悪いフォークリフトがあることと、順次、更新して行く事、電気式に更新するなどの施策を実施して行くことや更なるエコ運転をするように働きかけて行く。

(3) 廃棄物の排出抑制

- ① 廃棄物の総排出量実数は5,669 tで実数目標を達成することができた。
- ② 総物質投入量当りの廃棄物排出量は、0.332 t/tで目標達成となった。環境に配慮した適切な原料の投入管理の実施（収率の監視）と産廃への排出管理の実施により達成する事が出来た。

(4) 上水道の使用量削減

- ① 上水使用量の実績は、37,954m³で目標対比1.2%増加となった。そのために、残念ながら目標未達となってしまった。
- ② 設備増設したペレタイザーの冷却水、増設チーラーの冷却水等の使用による影響で増加してしまった。
- ③ リサイクル水の使用率の監視による更なる改善をして行く。

(5) 化学物質投入量の削減

- ① 硫酸の使用量は240kgと目標の66.7%減となった。硫酸は排水処理のPH調整用に使用しているが、月1回の外部機関による測定、オンラインのPH計で異常は見られず、適切な使用量である。硫酸は毎年使用量の変動が大きく、目標設定が難しい。
- ② PAC剤の使用量は、18,410kgと目標値の2%減でクリアした。

(6) パレット成形不良の削減

- ① 製品不良率の目標1.5%に対し、1.17%の実績であった。目標達成となったので評価できる。今後も、継続して自社メンテ技術を活用した不良率の低減活動に務める。

(7) グリーン購入の推進

- ① 事務用品のグリーン購入比率を65%以上（金額比）の目標に対し、56.0%の実績となり、目標値を下回った。今年度も、同じ目標値の65%以上とし、目標を達成できるように努める。

(8) 環境教育・社会貢献活動

- ① 全従業員を対象とした環境教育を2回実施した。（7月、1月）
- ② 各自治体への環境啓発活動としての工場見学の受け入れを積極的行なった結果、目標の300人に対し380人と目標を達成した。

- ③ H25年度から地域貢献活動への参加として、飯山市主催のゴミ拾いに参加している。「いいやまクリーンアクション2017」に 社員9名が参加した。
- ④ 環境関連のイベントとして、「信州中野環境祭」(9月：中野市)に出展し、リサイクルパレットと工場での環境活動をPRした。
- ⑤ 異常事態訓練は年間3回実施した。

Ⅲ 環境活動取り組み内容と結果

本年度の環境活動計画は、昨年度の活動項目も継続しつつ、新たに項目を追加して実施した。環境活動のそれぞれの取り組みに対する評価を以下に記載する。

(評価 ○：ほぼ100%実施 △：30～80%実施 ×：殆ど未実施)

1. 省エネルギー及びCO2削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	事務所棟、選別室の冷房温度適温化(冷房28℃)	○	実施中
②	工場内、事務所棟、不要時の消灯	○	実施中
③	空調機のフィルター清掃	○	実施中
④	デマンドコントローラーによるデマンド監視	○	実施中
⑤	Vベルトの省エネベルト化(定期交換時に順次省エネベルト化)	○	実施中
⑥	成形機チラーの夜間1台運転化 → 常時1台運転(11月より3月迄)	○	実施済
⑦	グリーンカーテンの実施(6月より10月迄)	○	実施済
⑧	少エネモーターへの切り替え(既存モータ故障時)	○	実施済
⑨	設備毎のデマンドコントローラによる対応	○	実施済
⑩	フォークリフトのアイドルゼロ化	○	実施中
⑪	ラウンド配送によるトラック走行km数削減	○	実施中
⑫	事務所棟の暖房温度適温化(暖房20℃)	○	実施中
⑬	紙使用量の削減(コピー枚数削減、裏紙再利用)	△	実施中
⑭	フォークリフト単位運搬量の増加による走行時間減	○	実施中
⑮	フォークリフトの号機別燃費管理及び充電式フォークリフト更新(新)	○	実施中

2. 廃棄物の排出抑制

No.	活動内容	評価	活動状況
①	産廃の分別廃棄の奨励と適正保管・排出	○	実施中
②	充電式電池の使用奨励	○	実施中
③	汚泥の水分率削減	○	実施中
④	比重残渣の水分率削減：ツイスターのロータ交換実施	○	実施中
⑤	洗浄残渣の水分率削減	○	実施中
⑥	金属くずの有価販売	○	実施中
⑦	ペレタイザー停止時に使用するオイルの廃油の再利用	○	実施中
⑧	規格外品の有価販売による廃棄物の削減	○	実施中
⑨	容リライン 収率アップ	○	実施中

3. 総排水量の削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	バルブ調整により水量・水圧の節約	○	実施中
②	上水供給バルブの開度の適正化(リサイクル水割合増)	○	実施中
③	スクリーン洗浄機の上水 → リサイクル水への切り替え	○	実施中
④	リサイクル水 使用率 50%(目標)	○	実施中

4. 化学物質の使用量削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	(75%硫酸)硫酸注入のPH設定レベルの適正化	○	実施中
②	(PAC剤)濃度の適正化	○	実施中
③	化学物質使用量・保管料を記録・管理する	○	実施中

5. 自社製品・サービスの環境配慮

No.	活動内容	評価	活動状況
①	中和剤の使用率削減	○	実施中
②	減容品の品質の向上（水分、異物、主成分、その他）	○	実施中
③	自社 金型メンテナンスによる不良率低減	○	実施中
④	金型構造の改造による不良率低減	○	実施中

6. グリーン購入の推進

No.	活動内容	評価	活動状況
①	事務用品等のグリーン購入比率を65%以上（金額比）	△	実施中

7. 環境教育・社会貢献

(1) 教育・研修

年2回のエコアクション21社内教育を実施した。（7月、1月）

- 1回目（7月）：
1. H28年度実績、環境目標達成状況
 2. H29年度環境方針
 3. H29年度環境目標
 4. H29年度環境活動計画
 5. H29年度目標に対する進捗状況
 6. EA21中間審査について

- 2回目（1月）：
1. H29年度環境目標達成状況
 2. H29年度目標に対する進捗状況
 3. 今後のEA21について、新しいガイドラインについて

(2) 落札自治体への環境への取組みのアピール

3月の自治体あいさつ回りにて、H28年度版環境活動レポートを市（町村）担当に配布し、取組みをアピールした。工場見学も同時におすすめした。

(3) 工場見学受け入れ

H29年度工場見学受け入れ数は88件：380名。市民への啓発活動として積極的に取り組んだ。今年も地域の小学校から社会科見学の依頼があり、4年生26名を受け入れた。

	本年度		累計	
	件数	人数	件数	人数
官庁関係	16	34	205	683
自治会	11	161	84	1,668
企業	57	108	348	669
一般市民・学校	4	77	239	747
その他団体	0	0	54	106
累計	88	380	930	3,873

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
見学件数	88	12	3	6	8	12	17	5	5	5	2	6	7
見学者数	380	20	6	28	99	26	48	69	25	18	4	10	27



地元小学生の見学状況



自治体からの工場見学状況



(4) 環境展への出展、地域環境活動への参加

2017信州中野環境祭（9/24）に出展し、当社のリサイクルパレットのPRと工場での環境活動をPRした。

また、飯山市主催の「いいやまクリーンアクション2017」（6/10）に社員9名が参加し、「飯山駅前エリア」と「寺まちエリア」に分かれてのごみ拾い活動を行なった。



いいやまクリーンアクション2017



2017信州中野環境祭



グリーンカーテン(朝顔)

(5) 異常事態訓練

工場全体で実施した総合火災訓練と、各工程ごとに想定される異常事態の訓練とで計3回実施した。

実施日	訓練内容	参加人数
10月27日	総合火災訓練	34名
2月13日	成形機オイル漏れ対処訓練	9名
3月20日	排水処理室漏水対応訓練	5名



IV. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

関連法規の遵守のため、関連法規を取り纏めた一覧表を作成し、毎月チェックした。H18年4月の工場稼働以後、環境関連法規等の遵守状況については毎月1回点検を実施しており、環境関連法規等を遵守していることを環境管理責任者が確認を致しました。また、飯山市及び近隣地域との公害防止協定も締結し、公害防止に万全を期しております。H24年度から実施している法規制外の自主測定、自主管理項目の

- ・脱水汚泥、比重分離残渣、洗浄残渣の水分率測定(廃棄物の排出抑制)
- ・工場周辺の騒音、振動、臭気、粉じん測定(周辺環境保全)

については、H29年度も毎月測定し、異常の無いことを確認しています。

平成29年4月1日～平成30年3月31日	環境に関する違反及び訴訟	無し
	環境に関する外部からの苦情	無し

V. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境管理責任者の報告とコメント	代表者による評価と見直し
<p>①環境管理マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 産廃業者向けガイドライン(2009年度版)の改訂のポイントを網羅しており現時点での見直し部分はない。 産廃業者向けガイドライン(2017年度版)への移行審査は、2018年5月以降に改定版が出るため、2019年度移行に予定。 	<p>法改正などの動向をチェックし、必要時は速やかに改訂を行うこと。</p> <p>ガイドライン改定ポイント及び移行処置等への説明会に参加すること。</p> <p>【変更の必要性 有 (無)】</p>
<p>②環境目標</p> <ul style="list-style-type: none"> H29年度は、各項目において目標をクリア出来た。更なる目標達成に向けた取り組みを推進していく。 	<p>H29年度は、H28年度の下期の数値をベースに目標を設定したので、H30年度は、H29年度の実績を踏まえて、更なる環境負荷低減対策の施策を行うこと。</p> <p>【変更の必要性 有 (無)】</p>
<p>③目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電気使用量の削減：目標対比99.6% ○化石燃料の使用削減：目標対比95.1% ○廃棄物の排出削減：目標対比83.9% △上水道使用量削減：目標対比101% ○硫酸使用量の削減：目標対比33.3% ○PAC剤使用量の削減：目標対比97.9% ○パレット成形不良の削減：目標対比88.6% △グリーン購入推進：56.0%購入比率 ○温室効果ガス排出量：目標対比99.5% 	<p>①環境に配慮した環境負荷の低減対策の実施を継続、監視して、フィードバック対応のこと。</p> <p>②温室効果ガス排出量を意識した、目標の設定を行う事。</p> <p>【変更の必要性 有 (無)】</p>
<p>④環境活動計画と実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画した各項目については、計画した通りに実施できたが、訓練については計画月よりも遅れることがあったが全て実施できた。計画した活動項目については継続項目が多いが、積極的に取り組んでいる。 	<p>PDCAサイクルを回して計画を進めていくこと。</p> <p>【変更の必要性 有 (無)】</p>
<p>⑤外部コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場見学の受入れ人数は目標を達成することができた。地元小学校の社会科見学に協力できた。また、市主催の清掃活動に参加することが出来た。毎年続けていきたい。 違反、訴訟、苦情は無し 	<p>各自治体に対して、工場見学の紹介や地元への貢献活動を今後も継続していくこと。</p> <p>【変更の必要性 有 (無)】</p>

代表者による総合評価	<p>1. H29年度の結果は、H28年度の設備改造を実施した事より、環境負荷が増大し目標が未達であった事を反省して、H28年度の下期の数値を基に、実績環境負荷低減に向けた取り組みをメンバー全員で行ったので、ほとんどの環境目標網目を達成する事が出来ました。</p> <p>今後も、自主的・積極的に環境負荷軽減対策に取り組んでまいります。</p> <p>2. 今後も廃棄物処理事業者として適正事業・透明性の確保・情報公開に努め、エコアクション21などの環境マネジメントシステムの継続的な改善活動を通じ、循環型社会形成に応えるべく、企業を挙げて取り組んでまいります。</p>
------------	---

平成30年4月27日

株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦